

「奈良べっ甲」の技術を継承

聖徳太子ゆかりの桜井市の上之宮遺跡から、日本最古の加工された痕があるタイマイの「べっ甲」が出土したが、昭和61(1986)年。正倉院宝物の中にも、べっ甲細工が伝えられている。1300年以上の歴史を持つ伝統工芸品「奈良べっ甲」を現代に伝えているのが、同市茅原、池田工房のべっ甲職人・池田柏藻(はくも)さん(72)＝本名・和美＝。平成28(2016)年に現代の名工(卓越技能賞)、令和元(2019)年11月には黄綬褒章を受章した。2代目・池田征二さん(40)とともに、50年近くにわたって「奈良べっ甲」の伝統技術を守り続けている。

挑戦

～伝統を未来へ 紡ぐため～



池田工房(桜井市)の池田柏藻さん・征二さん親子

「奈良べっ甲」の技術を親子で継承する池田柏藻さん(左)と征二さん。テーブル両側がタイマイの「べっ甲」＝桜井市茅原の池田工房で

池田さんとべっ甲と出会いは、実兄の紹介で昭和39(1964)年に東大阪市の布施で山田白水師匠と会ったことが機。大三輪中学校を卒業後、迷わず住み込みで師匠のもとへ。そこで10年間修業を積んで、昭和49(1974)年に独立。柏藻という号をもらい、現在の工房を構えた。

「小さい頃からものづくりが好きだったので、仕事でしんどいとは思わなかった。ただ、夜中にホームシックで泣いたりとかはありましたが…。とにかく『一人前になる』という気持ちが強かったです」と住み込みでの修行時代を振り返る。

材料に使うのは、ウミガメの一種・タイマイの甲羅。日本近海には生息しない。カリブ海、インドネシア近辺、大西洋の温かい海でしか生息しない。日本では長崎べっ甲、難波べっ甲、江戸べっ甲と全国3地区でべっ甲工芸が継承されてきた。

池田さんの奈良べっ甲は、難波べっ甲の流れをくむ。タイマイの甲羅は、1匹でうろこ状に13枚付いている。背甲、爪(縁草)の古典柄がある。正甲(腹甲)の中から、作品にあった生地を選ぶ。それぞれの部位で色合いや模様が変わってくる。

透かし彫りには「麻の葉」「七宝柄」「青海波」「唐草」の古典柄がある。正倉院のデザインと出会う前は、古典柄の透かしをやっていた池田さん。「正倉院のデザインは、シル

池田工房の真骨頂は「透かし彫り」。素材の特性を生かしながら下絵を描き、細い糸ノコなど幾種類もの道具を駆使して下絵に沿って彫っていく。そして、磨き上げて仕上げる。

池田工房には、かんざし、アクセサリ、ペンダント、ブローチ、イヤリング、ネックレス、帯留めなど多種多様なべっ甲製品がそろっている。池田さんは15年ほど前から、自ら販売も手掛けている。全国のデパートの展示、販売に出かけることも多い。これまでの最高は年に約30回。ところが、今年は新型コロナウイルスの影響で売り上げ



正倉院銅燗炉の連珠文様と三弁花をデザインした作品

真骨頂の「透かし彫り」集大成



庭園内の井戸から、べっ甲細工が出土した聖徳太子ゆかりの上之宮遺跡(桜井市内)

池田工房
桜井市茅原168
(JR桜井線三輪駅下車、北へ徒歩10分)
かんざしやネックレスなど、べっ甲装身具の即売のほか、世界でたった1つのオリジナルアクセサリ一作りの体験もできる。完全予約制で、1回につき4人まで。営業時間は午前10時～午後5時。定休日は定まっていない。予約問い合わせは☎0744(43)4734へ。

も半減。持続化給付金の申請をしたぐらいに落ち込んだ。「販売の1週間の旅は、源はモノ作りです。作っ

「透かし彫りには一生懸命なもので、夢はもうありません。透かし彫りという技術だと思っ

「透かし彫りには一生懸命なもので、夢はもうありません。透かし彫りという技術だと思っ

「透かし彫りには一生懸命なもので、夢はもうありません。透かし彫りという技術だと思っ

「透かし彫りには一生懸命なもので、夢はもうありません。透かし彫りという技術だと思っ